

大阪

あんなところ
こんなところ

『堂島』

堂島アバンザの敷地内に建つミラーボールの様な建物。この建物は、1400年以上もの歴史があると言われる堂島薬師堂で、堂内には薬師如来像、地藏菩薩像、弘法大師像などが祀られています。今回は、「堂島」と堂島の名を冠した「堂島薬師堂」の祭りについて調べてみました。

御堂のある島

堂島は、曾根崎川の埋め立てが始まる明治42年(1909)までは、北に曾根崎川、南に堂島川が流れる中州の島で、川を上下する船から御堂が見える事より「堂島」の地名が付いたと言われる他、南北の川(革)に挟まれた地形を鼓の筒に喩えて「筒島」と呼ばれるなど、種々の説があります。小川宗五という住人が五花堂と称したので「五花堂島」となった・・・というのも堂島由縁の一つです。

堂島薬師堂

593年、推古朝の頃の史料に「東は玉造に四天王寺をつくり、西の方洲の中に御堂を建立」の記録が残っているそうです。また、延宝三年(1675)に書かれた古文書「芦分船」にも「聖徳太子が四天王寺創建時に建築用材の運搬船が暴風雨で難破、洲の中に流れつきお堂を建てた」との記述があり、これが薬師堂の起源とされています。以来、薬師堂は人々の信仰を集めます。明治26年(1893)からの大阪大師詣り行事では、この薬師堂が第一の霊場として1日に数十万人の参拝者で賑わいました。明治42年(1909)の北の大火(天満焼け)でお堂が焼失するも4年後に再建。そして、昭和50年(1975)毎日新聞社の新社屋移転計画により、敷地内にあったお堂は移転します。平成11年(1999)堂島アバンザの建設の際、元の場所に戻され、現代の近代的なお堂となり、毎月二回の法要が行われています。

現在、堂島薬師堂では、2月3日(立春の前日)に節分お水汲み祭りが行われ、大阪の街に春と福を招く風物詩となっています。当日は、薬師寺の僧侶が祈禱した「お香水」を参拝者の竹筒に注ぎ、無病息災、商売繁盛を祈願する「お水汲み」や願い事の書かれた護摩木が炊かれ、法要が営まれます。また、北新地町内を僧侶・鬼・福男などが法螺貝を吹き、ドラを響かせて練り歩く「鬼追い」。薬師堂に祀られている弁財天の化身である龍が舞う「龍の巡行」。趣向凝らした「お化け」他の催しが行われます。



掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞